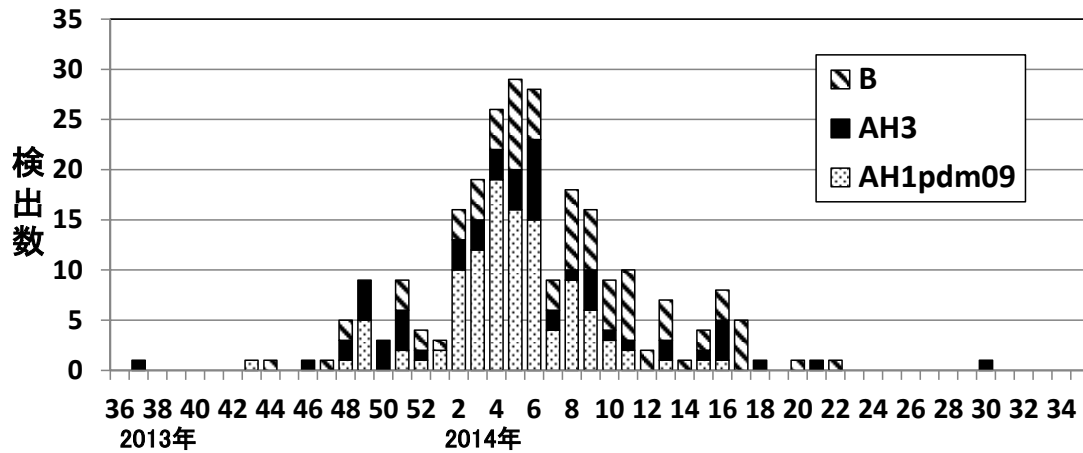


インフルエンザ (2013/14 シーズン)

2013/14 シーズンの全国のインフルエンザ流行状況は、3 シーズンぶりに AH1pdm09 が流行の主体で、次いで、B 型、AH3 亜型でした。県内でも同様の状況で、型・亜型別の検出割合は AH1pdm09 が 44%、B 型が 34%、AH3 亜型が 22%でした。下図に、2013/14 シーズン(2013 年第 36 週～2014 年第 35 週)の県内におけるインフルエンザウイルス検出状況を示しました。



週別インフルエンザウイルス検出状況 (2013年9月～2014年8月)

2013/14 シーズンの全国の各型及び亜型のインフルエンザウイルス分離株について、抗インフルエンザ薬(ノイラミニダーゼ阻害薬 4 種類:オセルタミビル、ペラミビル、ザナミビル、及びラニナミビル)に対する耐性変異の有無を国立感染症研究所が調査したところ、AH1pdm09 の 2530 株中 105 株(4.2%)にオセルタミビル及びペラミビル耐性株が認められました(ザナミビル及びラニナミビルに対しては感受性)。AH3 亜型 320 株及び B 型 310 株には耐性株は認められませんでした。AH1pdm09 は札幌市を中心に耐性ウイルスの地域流行があり、道内での耐性ウイルス検出率は 28%と高率でした。県内で検出された、AH1pdm09 90 株、AH3 亜型 36 株、B 型 61 株について、薬剤耐性マーカーの有無を調査したところ、AH1pdm09 の 4 株(4.4%)に耐性マーカーが認められましたが、AH3 亜型、B 型には耐性マーカーを持ったウイルスは認められませんでした。今後も薬剤耐性変異の出現状況については監視が必要です。

2014 年 9 月以降、すでに県内では AH3 亜型が検出されています。全国的にも AH3 亜型が多く報告されています。

病原体定点の先生方には、検体採取をよろしくお願いいたします。

インフルエンザに関する最新の全国情報、抗インフルエンザ薬耐性調査については、国立感染症研究所感染症疫学センターのホームページ (<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html>) でご覧になれます。